

東洋ゴム工業の不正に伴う 車両への影響と安全に関する 会社からの窓口回答

本部は、10月14日にマスコミが、東洋ゴム工業において電車や船舶に使用する防振ゴム製品のデータを改ざんする不正があったと報道し、J R 東海がこの不正品を車両の一部に使用していることを明らかにしたため、安全に重大な問題があると考え、10月22日会社に申し入れを行いました。11月16日、幹事間において説明がされました。以下、その申し入れ内容と回答です。

1. 「防振ゴム製品のデータ改ざん」について、東洋ゴム工業から説明された内容を明らかにすること。

【回答】

在来線1部車両の牽引装置の防振ゴムにおけるゴム材料試験において、検査不正行為があったと聞いている。なお、製品化後の完成検査のデータには不備がないと聞いている。

2. データが改ざんされた防振ゴム製品が扱われている部位、個数、車両編成、納入年月日を明らかにすること。

【回答】

現時点で把握していない。東洋ゴムに対して早急に納入数等を明らかにするよう要請している。

3. データが改ざんされた防振ゴム製品が明らかになって以降、そのゴムが使用されている部位の点検を実施したのか明らかにすること。又、点検を実施したのであれば、具体的な日時、部位、編成を明らかにすること。

【回答】

防振ゴム自体車体等への振動を防ぐためのものであり、直接安全に関わる部品ではないと考えている。定期検査において機能等を確認していることから、新たに調査点検等をする必要はなく、従来の定期検査による確認で問題ないと考えている。

4. 乗務員、乗客が安心して乗車できるよう、データが改ざんされた防振ゴム製品は全て交換すること。

【回答】

防振ゴム自体車体等への振動を防ぐためのものであり、直接安全に関わる部品ではないと考えている。また、製品化後の完成検査のデータに不備がないことは東洋ゴム工業が確認している。

現時点で使用数は判明していないが、不正品が判明し次第工場出場時における定期検査等で取り替えを進める。

5. 会社としての当面の対策を明らかにすること。

【回答】

現時点で使用数は判明していないが、不正品が判明し次第工場出場時における定期検査等で取り替えを進める。

組合：安全に問題はないのか。

会社：ゴムの練り合わせ時データに不正があったようだ。製品化された後のデータに不正はなく、安全に問題はない。

組合：新幹線には使用していないのか。

会社：新幹線には使用していない。

以 上